



おちほ

第60号 平成20年3月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

Marry Christmas



十二月二十四日。何があるかはみなさんに伝えていなくとも、日に日にカワイイ装飾で飾られていく食堂を見てきつとワクワクしておられたことでしょう。おちほの一大イベント、クリスマス会が盛大に行われました。

今年はある職員がよくお世話になっている居酒屋のマスターのバンド、『マスターズ』のみなさんによるバンド演奏からスタート。ギター、ピアノ、フルート、コーラスの見事なハーモニーを聞かせていただきました。アンコールでは寮生のみなさんもノリノリ♪

続いて高田じゅんさん・崇史さんによる漫談と歌の出し物。毎年この日の為に練習をして下さっています。盛り上げようと頑張って下さる気持ち嬉しいですね。

そして職員によるダンス。今年のテーマは「コスプレ」。見ているだけではと立ち上がり、一緒に踊る寮生さんもおられ、最後にはほとんどの方が踊っておられ、会場はクラブと化していました。最後に音楽の出し物。ギターやウクレレ、ステキな歌声にみなさんウットリ。



後半はお楽しみ、クリスマスディナー！今年もたくさんさんの料理がテーブルを埋めつくしました。が、お皿が空になるのも早い…。毎回ビックリさせられます。最後は待ちに待った、サンタさんからのクリスマスプレゼント。みなさんの嬉しそうな表情に、きつとサンタさんも喜んでいくことでしょう。サンタさん、来年も来て下さいね！



食欲の秋やね!



中藪さん、という職員が落穂寮におられます。寮生さん、そして私達職員に、美味しい時間を提供して下さい。炊事の職員の一人であり、そしてまた、日課作業棟の裏手に食

ホクホク芋

いしん坊な寮生さんから姿を隠すかの様に存在している畑のお世話を、中心になつて下さっている方でもあるのです。

休憩時間までも使つて中藪さん達が作つて下さったお野菜。その野菜を私達は知らない内に食べているんだなあ……。ありがたくなって、でも何だか「ごめんなさい」

って伝えたい、そんな気持ちです。

秋といえばホクホクの焼き芋!中藪さんがお世話して下さいましたサツマイモが、私達の秋を彩ります。横に長く長く伸びたツル。緑の葉っぱ。はてさて、この下の土の中にはどれだけ大きなお芋が姿を隠しているのでしょうか!?期待に胸を膨らます私達なのでした。



「そっちはどのお芋?」

そんな言葉のやり取りがお芋畑で行われています。土中に力強く張ったツルを職員がなるとかどかして、固い土をシャベルで起こす。主役のお芋は落穂寮あるじの寮生さん達にお願いをしたもの。堀れども堀れどもお芋はなかなか出てこない。ひとたび大きなお芋を掘り起こした寮生さんは、その瞬間、畑の中のヒーローになる位の状況でした。

それでもなんとか、粘り強く・しつこく土を掘り、カゴ一杯分位のサツマイモを収穫するに至りました。それでも収穫高は昨年の約半分程。あんなにお芋の葉っぱは茂っていたのに……。外見に騙されるな」とはまさにこういう事なのでしようね。

けれど、たくさん穫れる」とか全然穫れない」にこだわりがちなのは、職員側だけであつたりするのです。一緒に畑に居た寮生さん達は、スコップで土を掘って、お芋を探し出す、という「お芋掘り」をただただ純粹に楽しんでおられた様に感じられます。

『秋』をめいっぱい

さてお芋掘りから二週間程が経ち、いよいよ焼芋開催日。店頭のお芋を少しプラスすることにはなりましたが(笑)。

三時を待たずに全員集合!寒くはない良い天気です。ホカホカお芋もまた格別に美味しく感じられました。

秋空の下、秋の空気を感じ、秋の味覚を味わう:なんともオツな日曜日の下がりなのでした(★)



実は前にも…？



―男子棟親子旅行―

十一月十八日、男子棟は親子旅行に行きました。毎年、担当者は場所選びに四苦八苦(汗)。何せ寮生さん、保護者、職員を合わせると総勢六十名近くになります。六十名を収容できる所はなかなかないので、担当者はあの手この手で探しています。

今回は守山の料亭「魚和」にて行う事になりました。私達の色々な要求にも快諾していただきました。メニューは魚和の自慢の魚和鍋を頂きました。自慢の鍋という事もあり、寮生さん、保護者の方々、職員共々、おいしくいただきました。その中で、保護者の方々とは寮での寮生さんの生活や家での様子なども話し合う事



▲親子でハイ、チーズ

のに…？と思いつつ話を聞くと、もう何十年も前でしたが落穂寮で食事をして来た事があった様です。昔の職員の方の名前を聞いて驚きました。何十年前にも当時の職員がここを使い、また今も使っていた…。何か不思議な縁を感じました。私もこの様な出会いを大切にしていきたいと思えました。



▲お鍋、おいしくいただいてま〜す♡

ができ、良き時間を過ごす事が出来ました。寮生さんの笑顔や保護者の方々に、「おいしかったよ。」「楽しかった。」「言葉をお聞きいただき、担当も安心する事ができました。」
後日、担当者が、料金を支払いに行ったのですが、その際に店の方から、「以前も使っていたかもしれませんが？」と言われました。担当者(九年目)の職員は初めてのはずな

雪の日の日曜日



今年の冬はとても寒かったですね。昨年の暖冬がウソのようです。落穂寮にも何度か雪が降りました。そんな雪の日の日曜日の様子を紹介したいと思います。

二月も半ばのとある日曜日。昨夜から降り続いた雪も一旦止み、グラウンドを見渡してみると、そこは一面の銀世界。太陽も顔を出し、絶好の雪遊び日和です。落穂寮にこれだけ雪が積もったのはかれこれ二年ぶりでしょうか？雪あそびも久々です。みんなしつかりと厚着をしてもらい、いざ、グラウンドへ。玄関には、すでに、ソリが用意されています。実は前日の内に職員が、雪を運んで、すべり台を作ったりと準備万端整えておいたのです。さっそく、ひとりづつすべり台に登ってもらい、そり遊びにチャレンジです。シャーツと上手に滑る寮生さんといえば、やつぱり怖いのか、職員と一緒に、なんとか滑ることができた寮生さんもと、みんなでワ

ふたりでビューン



イワイ楽しみました。職員も、すっかり童心に帰ってしまう程でした。残念ながら、すべり台が、どうしても恐くて滑れなかった寮生さんも、平らなところで、そりに乗り引いてもらったり、手で雪の感触を楽しんでもらったりと普段でできない経験をしてもらいました。約一時間ほどグラウンドで過ごし、温かい室内へと帰りましたが、こんな日が毎年一回はあるとうれしいな、と思う職員でした。



スピード出し過ぎ〜！





ドライブ
in 石川
点心 & 精進料理
を食べました

ブドウ狩り
in 川守観光ぶどう園
手作り弁当とぶどう

で 大満



ガルメ in 愛知

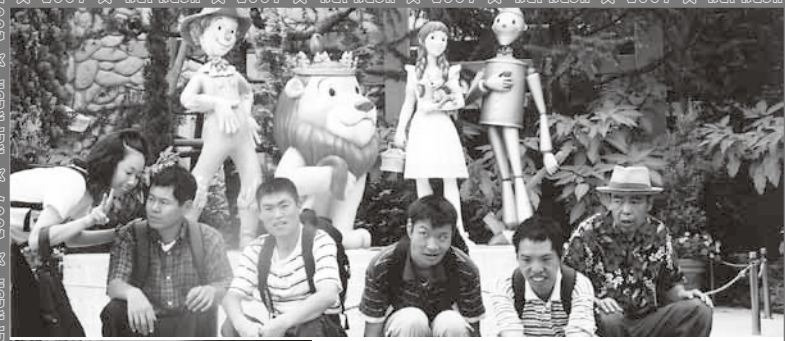
ケーキ食べ放題に食べ歩き!
なんと多国籍料理まで!!

海水浴
in 答志島
モテイイ〜♪

旅行大好き!!

動物園 in 大阪
みかん狩りも
しちゃった♡

沖縄
美ら海水族館に
行きました。
めんそ〜れ〜



野球
in 大阪ドーム
電車で行きました!
大阪満喫☆
生ビール最高☆

自立支援法は パンドラの箱?

寮 長 山下陽一

措置から契約へ

落穂寮は一九五〇年(昭和二五年)に創立しました。今日までたどった道は戦後福祉の発展と変遷の過程そのものといえるでしょう。敗戦直後からその過程に沿って、まず子どもからということ

で児童福祉の充実が先にあり、次第にその人たちが加齢化していくに従って福祉の充実が拡大してきたように思えます。また、そのほとんどが、利用する施設を役所が決めていた措置時代として過ごしてきましたが、新しい制度もとの施設利用は利用する施設と契約を結ぶという制度に変更されました。

障害者自立支援法の行方

新たな生涯福祉の仕組みの基本となる障害者自立支援法が施行されました。世界的な不況下で国にお金がない時代を背景に制度化されたものですから、施行直後から黄金のパンドラの箱を開けたときのように具合の悪いものが一気に噴出し、厚労省も慌てて「制度の抜本的見直しを行う」と言わざるを得ない状況になってきています。

障害の重い人たちが生活している落穂寮が制度的にどのように組み変わっていくのか、問題点はどこにあるのかを挙げてみたいと思います。

一、障害程度区分

利用者は全員、国から示されている調査項目(二〇六項目)により障害程度の区分認定がなされます。そしてその区分により支援する際の費用

の額が決まります。六区分あるのですが、原則的に区分四以上の重い障害を持った人たちが入所施設を利用できることになっています。

二、昼と夜は別事業

落穂寮の職員の給料や施設を利用している人たちの生活に必要な財源は、公の費用と利用している人たちの自己負担により構成されています。利用の仕方により分けられ、昼の生活介護事業を利用すると〇〇単位、夜の時間帯を入所施設で過ごす××単位と計算され、障害程度が重くなるほど高い額の収入となりますが、配置基準があり職員数も手厚く配置しなければなりません。

今の制度の問題点は何か

人の障害程度を区分することの問題は別に論議するとして、この区分は何を下敷きにして物差しかといえますと、先に実施されている老人の介護度を決めるときの物差しが援用されたものなのです。当時、厚労省は障害の支援と老人の介護を制度的に統合する保険制度の考え方が主流でした。そのことが根底にあったのではないかと思います。現在、制度的統合は説得力がありません。

そのような物差しですから、知的な障害を持つ人たちが故の支援について物差しに掛からないところが生じています。特に自閉といわれているコミュニケーションの難しい人たちの対応については評価が緩かった。施設など障害関係団体か

ら厚労省に対してその問題点を執拗に提起して、やっと運用上で少し適正化しているようですが、これがグリーンゾーンとなっているため各地域で行われる認定に差が生じています。

次に、昼の事業(生活介護)と夜の事業(入所施設利用)を分離する制度の問題点を考えてみましょう。

昼・夜を事業区分するには、区分認定の際の先にあげた一〇六の調査項目中に夜の部分をチェックする項目は二つあるのみで、生活実態に即した物差しになっていないのが実情です。

私たちが「ホテルコスト」ということばを使っていますが、障害のある人も夜は布団やベッドで静かに寝ていると思われているらしい。落穂寮の場合、常ではないのですが、精神的に不安定になると一晩中、壁に頭を打ち続け、連夜繰り返すうちに二枚重ねの厚み四センチもある石膏ボードに大きな穴を空けることもあるのです。

私は「夜は昼の結果、昼は夜の結果」といっています。施設を利用せざるを得ない人は特にそれを確信しています。昼に安定して過ごせ、一汗かいた仕事をして一日のメリハリあるリズムに沿った生活ができていくか、それが夜の睡眠などの生活を左右することになります。また、睡眠が安定しているか否かで日中の活動が左右されることにもなります。

しかし、利用者の中には昼に覚醒している波と夜の睡眠の深さの波の度合いにあまり差のない人も少なからずいます。特にテンカンの症状を併せ持つ人たちがそれで、抗てんかん薬を服用していると、日中は薬の副作用で覚醒が抑えられます。実際の支援では軽作業や歩行することにより、日中眠くとも生活のリズムを壊さないような生活習慣を身に付けるようがんばっています。

このようなところから、昼夜を分離するのは「本人の生活実態に沿っていない」と主張しています。

次に、現在の制度は一日を利用単位としていますが、これも利用している人たちの生活実態に沿っているものとなっているでしょうか。

ひとつのケースを紹介しましょう。

この人は食事については固執性がある反面排泄の意欲がそれに伴っていないために体内に排泄物が残留することになります。本人も辛いらしく医師の診断を受けながら薬による排泄をせざるを得ない状態になることもしばしばです。生活記録を読むとすさまじい様子が書かれています。四五日以上もなかった排泄がお腹のマッサージなどの努力で排泄がどんぶり鉢四杯分とか五杯分とかあって、その後、本人はすっかりした様子など記録されています。

福祉の現場はこのようなことを一つひとつ解決しながら生活しています。毎日一日の連続ではなく、その一日は毎日が違う生活なのです。このようなことから、一日の単位で生活が過ごされているという認識に大きな疑問を感じています。

箱の底に残っていたものは?

二〇〇八年(平成二〇年)四月から新しい制度に基づく生活が始まりますが、一人ひとりの障害の特性に沿った支援が行われなければなりません。しかし、これに対応するには人材の確保は欠かせません。今は福祉の事業関係にとどまらず「人材バンク」が起きています。そのような時代にあって、落穂寮の若い女子職員ほとんどが未婚の人たちですが、このコンピュータ万能の社会の中、先に触れたどんぶり鉢の数に一喜一憂する人たちが生活を支えています。このような人たちがいるからこそ、今後の大きな希望となるのではないのでしょうか。

今後の落穂寮に理解と支援をお願いいたします。

(二〇〇八・二・二二)

追悼

正義君を偲んで

一月十九日正ちゃんが逝った。こんなにく。信じられません。ああ！殺生じゃありませんか。神様仏さま何と言う無慈悲なことを。

昨年十月二十六日なじみの魚仙で、君と杯を交わし、君の歌はカクテルにも増して甘く、心に響いたばかりなのに。

十二月六日君を見舞った。病床の君は微笑を浮かべテレビを切り私を迎えた。すい臓癌の告知を受けたといい、治療の状況を話した。

病室はきれいで窓からの眺めはよいといい、君が指さす方には近江富士の裾野に広がる冬田がところどころ黒い膚をみせていた。顔は少し細り不安がみてとれたが、思ったより元気であった。

帰りは点滴の袋を持って九階のエレベータまで送ってくれた。新年を迎えた。晩年のヘルマンヘッセのように、もうひと夏もうひと冬と、生きようとしていただろうに、この夏を見ることなく君は逝った。

わたしが正ちゃんを知ったのは、叔父池田太郎さんの元から高校に通う君でした。サッカーの選手として君の名は県下に知られていた。君の奥さんは同じ学校の陸上部の花でした。関西大学を終える

と落穂寮に勤め、その後開設間もない信楽青年寮に移ってきた。暫くして、「今日正義が千鶴さんの親に、結婚の許しを請いに行っ

たのや、一人で行ったが、わしはその気概がうれしい」と、叔父の太郎さんがいわれた。増田正司夫妻の媒酌で君と千鶴さんは結ばれ

た。

私どもと正ちゃん夫婦は信楽学園で軒を連ねて暮らしていたが、君の家はいつも華やき、甘い蜜の香りが漂っていた。一人娘の真理ちゃんと私の娘はよく遊んだ。

その後仕事の出来る君は近江学園に転任、喜びも悲しみもの幾星霜、しゃくなげ園の園長で定年を迎えた。退職後一時期、県の社会福祉事業団に席を置いたが、椎の木会の理事長を引き受け、法人の羅針盤となった。施設の運営が経営に大きく変わるこの時期、私は君の心意気に打たれた。大胆な戦略と細やかな事業の展開で、法人の舵を取る君に期待を寄せていた。

この間君は長年の福祉や地方自治の功績で、宮中の園遊会に招待されることもあり、目の当たりにした両陛下の麗しいお姿を聞かせてくれました。

わたしがマージャンをやるうとしたら、「止めときな、あんたはとことんやるから」といつてくれた。君はダンデーでおしゃれで、なかなかの勝負師でした。柔軟な思考と先を見越し、機を見て敏なるところがあった。また、不正は頑として許さない芯の強さがあった。君はとてもデリカシにとみ、周りの人に快い安らぎを与える人で、「正ちゃん正ちゃん」と慕われた。君の真似はできません。

退職後は趣味であちこちの庭木の刈り込みをしていた。君の庭師の腕前はプロ級で、多くの人から喜ばれた。

火葬場で妻千鶴さんが「あなた有難う」と最後の言葉を述べられた。この言葉は私の心の底に深く沈んだ。君は幸せな男だと思うと同時に、人生は富でも名誉でもなく愛こそが至上だと確信した。

七十三年の君の人生に敬意を払い、一句を捧げお別れします。

刈り込みし庭木も濡るる冬の雨

睦月二十六日

元信楽学園園長 北村信雄



「よいしょーっ」「よいしょーっ」と
威勢よい掛け声が響きます。
「ペッ、タン」「ペッ、タン」「ペッ、
ゴッ」「ペッ、タ」「ペッ、タゴッ」時々
怪音を織り交ぜながらつつきあがっている



『おいしい今日を ありがとう』

きます。つきあがったものから日赤奉
仕団の方が次々と手際よく仕上げてい
かれます。

今年は十二日。仕上げの手際よさと
は対照的に、利用者も職員も慣れない
杵さばきで、悪戦苦闘の末によりやく
つきあがりました。

今年が初体験の職員の方が楽しそう
でしたが、それが伝わったのか例年よ
り多くの利用者が体験され、大変に
ぎやかな大会でした。

皆さんありがとうございました。



泉

▼椎の木会の理事長を務めていただ
いておりました、高井正義さんがお
亡くなりになりました。これまで、
利用者・職員のみならず、落穂寮の
全てが大変お世話になりました。あ
りがとうございました。ご冥福をお
祈りいたします。

▼平成二十年四月より新事業体系に
移行する事になりました。それに伴っ
てこれまで以上に多くの義務と責任
が生じ、報酬体系も変化していくた
め、気を引き締めて取り組んでいか
ないと、これからの運営に支障をき
たすことになりかねません。職員を
増員しなければクリアできないので、
細かい支援ができると思いきや、今
よりも厳しくなるといふ怪奇現象。

乗り越えなければならぬ壁が多
すぎると頭を抱えているのは、知る
人のみぞ知る”でしょうか。

木言

音が聞こえる人はそう多くはい
ません。いや、聞こうとする人が
多くいないのかもしれない。

聞いてくれる人がいなくなると
不安になります。みんな同じです。
でも、それに気付いてくれる人は
そう多くはいません。いや、聞こ
うとする人が多くいないのかわし
れません。

あなたには、聞こえていますか。

『明るい明日を ありがとう』



今年もサンタク
コースさんは来てく
れました。そうです、
ランプ交換です。毎年の事とはいえ、
これがなければ新しい年を迎えること
はできません。それ程、なくてはなら
ない出来事なのです。

毎年来てくださる方がおられるよう
で、職員よりもランプの状況を把握さ
れているのを感じたときは、なんだか
とつてもうれしくなりました。

どうぞ、来年も心待ちにしております。
ありがとうございました。

